社団法人　日本補綴歯科学会　Japan Prosthodontic Society
発行人　赤川安正　　編集　広報委員会
〒170-0003　東京都豊島区駒込 1-43-9
社団法人　日本補綴歯科学会
Tel　03-5940-5451　　Fax　03-5940-5630

Letter for Members No.19 2005

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/　2005.10.10 発行

臨時総会で補綴歯科専門医承認

《コンテンツ》

臨時総会で補綴歯科専門医承認 ……1
支部長から一言 ……2,3
関連学会報告 ……4-6
受賞者の声 ……6,7
関連学会のご案内 ……7,8

『補綴歯科専門医』として申請

平成 17 年度社団法人日本補綴歯科学会臨時総会が平成 17 年 8 月 7 日（日），日本大学歯学部において開催されました．本臨時総会は，本学会における専門医制度の発足を審議することを主な目的とし，全社員 246 名中 202 名（うち委任状出席 142 名）の出席をもって成立いたしました．議長には，代議員の石上友彦氏が選出され，専門医制度を中心とした議案について審議が行われ，社団法人日本補綴歯科学会専門医制度のスタートが満場一致で承認されました．

これに伴い 8 月 10 日，本学会専門医の名称を「補綴歯科専門医」として，日本歯科医学会に専門医制度申請書類一式を提出致しましたことをご報告いたします．

専門医制度の内容を抜粋しますと，平成 17 年 8 月 8 日現在認定医の資格を有し，資格の更新を 1 回以上行っている会員は，自動的に専門医として認定されます．一方，認定医の資格を有し，更新を行っていない会員は，新たに治療を終了した 5 症例に関する資料を認定審議会に提出し，審査に合格することにより専門医と認定されます．

詳細は専門医制度規則・専門医制度施行細則が，学会ホームページにてご覧いただけますのでご参照下さい．

なお，専門医の名称を「補綴歯科専門医」として申請致しますが，専門医の名称を広く浸透させることが必要であり，「補綴」を一般国民に周知することが急務となります．「補綴」の周知に全力をあげて取り組むための活動の一環として，学会ホームページのリニューアルを行っており，この記事が出るころには，一般の方向けの新しいホームページが登場する予定です．

専門医制度の推進によって，社団法人日本補綴歯科学会はこれまで以上に重要な社会的責任を担う学会として歩むことになります．専門医制度の推進，「補綴」の周知にご協力のほどお願い申し上げます．

庶務担当理事　矢谷博文

支部長から一言

東北・北海道支部

支部長　渡邉　誠

今年度から東北・北海道支部長を担当させていただくことになりました．本支部ではこれまで，北大，北医大，岩医大，東北大，奥羽大の5校の持ち回りで年1回の支部総会および学術大会を開催してまいりました．来年度からは本部学術大会が年1回開催となり，ますます支部の活動の重要度が増大してまいりますので，支部長としての責任の重さを実感しているところです．

任期中の目標としましては，東北・北海道内の各地域の歯科医師会と連携を強化し，とりわけ歯科大学・歯学部がない青森，秋田，山形の3県のいずれかで支部学術大会を開催することにより，新入会員のリクルートを兼ねた会員の交流を図りたいと思います．さらに，市民フォーラムや市民講座なども活発に開催し，広く地域住民に歯の大切さや噛むことの意義を伝え，補綴歯科学の普及に尽力したいと考えております．

皆様方よりご支援，ご鞭撻をたまわりますよう，よろしくお願いいたします．

関越支部

支部長　小出　馨

「関越はこれからも和気あいあいと前向きに」

関越支部は，栃木県39名，群馬県31名，新潟県221名で総勢291名のこぢんまりとした支部です．大学は新潟大学歯学部と日本歯科大学新潟歯学部の2校ですが，和気あいあいと楽しく活動してきました．総会・学術大会と学術講演会は，いずれも歯科医師会のご協力をいただき順番に各県で開催しています．生涯学習公開セミナーも，早速昨年から前支部長・野村修一教授の下で前向きに取り組み，歯科医師会の要望を組み込んだ「エビデンスに基づく補綴臨床」をテーマに，審美，歯周，インプラントのそれぞれ第一人者を4名，講師と座長にお迎えしました．他県の非会員も含め239名という当支部では過去最多のご参加をいただき，お陰で大変な好評をいただくことができました．この度，日本補綴歯科学会は社団法人になりましたが，関越支部では今後も患者さんに十分満足していただける補綴治療のために，隣接支部や各地域の歯科医師会との円滑な連携を図り，しっかりと役割をはたしていきたいと思います．一般市民の方々に対しても，市民公開フォーラムを連携のもとで積極的に企画・開催し，地域市民の方々にわかりやすく工夫をこらしてお伝えすることを通して支部活動の活性化に繋げたいと考えています．

東関東支部

支部長　大川周治

日本補綴歯科学会は，今年から社団法人としてスタートいたしました．社団法人化に伴い，本学会は従来の学会活動に加えて，活動成果の社会への還元―すなわち社会・公益活動の推進という責務を担うことになりました．さらに，本部大会は来年から年1回になることから，社会・公益活動の推進といった点において，今後，支部のはたすべき役割は重要であると考えています．

支部規則の整備，支部助成金に関する申請方法の変更など，学会が社団法人化されたことによる改定事項に関して，支部は迅速に対応しなければなりません．そして，地元の歯科医師会との良き連携による市民フォーラム・生涯学習公開セミナーの開催が必要と考えています．先生方のご理解とご協力をお願い申し上げます．

東京支部

支部長　石上友彦

日本補綴歯科学会が社団法人となり，学術大会も年1回に決まり各支部における活動もさらなる活性化が求められる状況になりました．東京支部は1,400名余りの会員と23名の支部理事により，昨年度までは年1回の東京支部学術大会と生涯学習セミナーならびに市民公開フォーラムを開催しており，学術大会にも毎回12～13題の口演発表があり，安定した支部活動が行われていました．しかし，本大会の年1回化に伴い会員に口演の場を提供する意味においても，会員には肩の張らない内容の演題も含め，支部学術大会には広い領域で参加していただきたいと考えております．そのためにも会員相互の親睦を深め，情報交換を行う必要性を感じています．さらに，社団法人の下部組織として広く一般歯科医師および市民にも補綴治療の専門性を知ってもらうために，東京都にある42の歯科医師会と協力して，小回りのきく生涯学習セミナーならびに市民公開フォーラムなどの開催を増したいと考えています．

西関東支部

支部長　藤田忠寛

1957年10月に始まる日本補綴歯科学会雑誌は書架の4段，約3mを占めています．48年後の今春からは，社団法人日本補綴歯科学会として，新しい時代を迎えることになりました．

私たち各支部の役割は，つぎの2点が大きな課題として考えられると思います．1つは，学会員

の「学」と「術」の向上をはかるための「支部学術大会」の充実であり，今1つは，学会活動に関する正確な情報を社会・国民に提供するための「催し」であろうと思います．

これらはいずれも，支部で開催される学術大会がその主体となります．全体で行われる学術大会は年1回となり，その分，支部学術大会の比重はさらに大きくなります．西関東支部では，数年前より，神奈川，山梨両県歯科医師会のご協力を得て学術大会を併催してまいりましたが，今後は市民フォーラムや公開講座などを企画することにより，社会に対する責任，国民の歯科医療全体の向上に努めるよう，努力したいと考えています．

東海支部

支部長　田中貴信

東海支部会は，愛知学院大学，朝日大学，松本歯科大学の3歯科大学を基盤として，愛知，静岡，長野，岐阜，三重，富山の6県に在住の688名の会員で構成されております．本年度から2年間，朝日大学の倉知正和教授を副支部長に迎え，小生が支部長を勤めることとなりました．

本年度の支部学術大会は，平成17年11月26日（土），27日（日）の両日，愛知学院大学歯学部楠元講堂にて開催予定であります．一般口演とともに，初日には生涯学習セミナーとして，愛知学院大学歯学部「ハイテクリサーチ」の主要メンバーとして，河合達志教授と吉成伸夫，尾澤昌悟両講師による「臨床に役立つ基礎研究」なる，シンポジウムを企画しました．座長はベテランの五十嵐順正教授にお願いしております．2日目には，徳島大学の坂東永一教授をお迎えしての特別講演を予定しておりますが，こちらの演題は現在未定です．

全国大会の年1回化の穴埋めに支部大会を充実せよとのお達しですが，現場は大変です．詳細は決まり次第，順次ご案内させていただきますが，沢山の会員のご出席を期待しております．

関西支部

支部長　江藤隆徳

社団法人となった学会は社会に向けた幅広い公益活動を推進する必要があり，学術大会の年1回化に伴う支部活動の重要性を感じております．平成16年度関西支部では，大阪府歯科医師会の後援にて初めての生涯学習公開セミナーを開催いたしました．非会員を対象としたセミナーということで土曜日の午後を選び，テーマも時代に即した「高齢者歯科治療の現在」をメインテーマに，大阪歯科大学高齢者歯科学講座の小正　裕先生，中国・四国支部の中尾勝彦先生にお願いし，106名の参加がありました．支部学術大会の前日に開催しましたが学会員の参加が多く，非会員に対する広報の難しさを痛感いたしました．

今年度は支部学術大会の充実と，生涯学習公開セミナーおよび市民フォーラムの開催を予定しております．多数の非会員および市民の関心を望むなら，魅力あるテーマで内容のある情報を提供し，いかに歯科補綴学とその臨床をアピールできるか準備を進めております．

中国・四国支部

支部長　中尾勝彦

中国・四国支部は支部創設以来，学会会員への啓蒙，普及にさまざまな試みをしてきました．

大学会員と一般会員との協調を保つように，支部大会の大会長および準備委員長は開催地の地元会員であり，それを大学講座が担当，補佐するようにしています．さらに地元歯科医師会と連帯し，後援を受けています．

支部大会における特別講演，シンポジウム，市民フォーラムのテーマ選択についても開催地の要望をきめ細かく検討し，できる限り要望にこたえるよう配慮しています．

これによって一般会員のみならず，歯科医師会会員へのアピールも強くなり，参加者数も増加傾向にあります．

平成17年は来年から始まる年1回総会化を踏まえて，九州支部との合同大会を山口市で開催します．大学関係者で300名，一般会員と地元からの出席者で600名を超えると予想しています．

九州支部

支部長　田中卓男

支部学術大会を，中国・四国支部および山口県歯科医師会と合同で9月3日と4日に開催します．開催地は山口市で，山口県歯科医師会会長の右田信行先生を大会長としています．一般口演23題のほか，特別講演1題，シンポジウム2題，生涯学習公開セミナーおよび市民フォーラムを各1題というプログラム内容は，従来の九州支部学術大会に比べて格段にスケールの大きいものとなっています．また，これまでは学術大会の前日に親睦ソフトボール大会が行われていましたが，今回は中止となりました．

今後，支部学術大会の合同開催は，全国大会の機能の一部を肩代わりをスムーズに行うために他支部間でも試みられるものと思われます．しかし，支部によっては独自の行事があったり，学術大会の性格や規模に対する考え方も異なっています．このため，合同開催を行うにあたっては，単に全国大会のミニ版と考えるだけではなく，それらの点についての十分な配慮が必要となります．

関連学会報告

第24回日本歯科医学教育学会総会・学術大会

平田創一郎氏による特別講演

平成17年7月7日，8日に，第24回日本歯科医学教育学会総会ならびに学術大会が，徳島大学蔵本キャンパスにおいて，三宅洋一郎大会長（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔感染症学）のもと開催されました．

特別講演Ⅰ「歯科教育の国内標準化と国際化の対応」（東京医科歯科大学，江藤一洋歯学部長），特別講演Ⅱ「徳島大学における法人化後の大学運営」（徳島大学，青野敏博大学長），特別講演Ⅲ「新歯科医師臨床研修制度について」（厚生労働省医政局，平田創一郎専門官），シンポジウムⅠ「歯科医学教育のカリキュラム改革」，シンポジウムⅡ「歯学部学生からみた歯科医学教育」，一般口演37題，ポスター発表109題と多彩な発表が行われました．

平成18年4月からの歯科医師臨床研修必修化をうけ，活発なディスカッションがあり，なかでも学生がシンポジストとなったシンポジウムⅡや，専門官が演者となった特別講演Ⅲでは，歯学部学生がマッチングなどについて教員や専門官と活発にディスカッションしていました．参加人数は400名余で，2日間の大会は盛会裡のもと終了しました．（広報　細木真紀）

第20回歯科心身医学会

平成17年7月16日，17日に土屋友幸大会長（愛知学院大学歯学部小児歯科学講座）のもと，第20回歯科心身医学会が愛知学院大学楠元講堂で開催されました．皆様ご存じのように，現在，愛知県ではいわゆる「愛知万博」が開催中であり，名古屋駅に到着すると多くの観光客と出会いました．厳しい暑さにもかかわらず多くの人が愛知万博に来ていたので，学会のためのホテルの確保が困難とのことでした．役員会などの席でも，担当大学の方から話題になりました．

今回の大会は，本学会設立20周年記念の大会でもありました．特別な企画などはありませんでしたが，懇親会などでは会場のあちらこちらで，学会の初期から参加されている先生方からの思い出話も華やかでありました．

ちなみに，今回まで補綴学講座で学術大会を担当されたのは，第11回の藍　稔大会長（東京医科歯科大学歯学部歯科補綴学第一講座），第13回の石橋寛二大会長（岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座），第18回の小林義典大会長（日本歯科大学歯科補綴学講座）です．今回の学会は，特別講演2題，教育講演1題，一般口演28題でした．参加者の専門も多様であり，学際的であることもこの学会の特徴の1つであります．

全人的治療という言葉は，現在，医療界のキーワードの1つです．当たり前ですが，人は身体と精神とで成り立つと考えることができます．疾病に対する身体的なアプローチは，現在までの科学を応用して非常に効果的であり，また，その効果も判定しやすい．しかしながら，身体的アプローチのみでは，その対応に困難な場合もあります．精神的な関与を考慮しなければならないこともあります．その精神と深いかかわり合いをもつ本学会の存在は，補綴学にとっても将来さらに重要なもののひとつとなる可能性があります．

（広島大学大学院　貞森紳丞）

第16回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会

第16回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会が，朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野の山内六男教授を大会長として，平成17年7月16日，17日に，岐阜県歯科医師会館にて，開催されました．

今回のメインテーマは，「スポーツ歯科外来の現状―大学，歯科医師会での取り組み―」で，特別講演，教育講演，シンポジウム，一般口演，ポスター発表が行われました．

特別講演Ⅰは，喜久生明男先生（きくいけ整形外科院長）による「アテネオリンピック女子ホッケーチームに帯同した経験とドーピングについて」，特別講演Ⅱは，渡辺郁雄先生（朝日大学歯学部総合医科学講座内科学分野）による「地域におけるスポーツドクターの役割―岐阜県スポーツドクター協議会20年の歩みから―」，教育講演は，上野俊明先生（東京医科歯科大学大学院スポーツ医歯学分野）による「日本スポーツ歯科医学会認定医制度について」と題するものでした．シンポジウムは，川良美佐雄先生（日本大学松戸歯学部口腔機能学講座）による「現状の整理と今後の展望」，上野俊明先生（東京医科歯科大学大学院スポーツ医歯学分野）による「東京医科歯科大学歯学部附属病院スポーツ歯科外来について」，小林琢三先生（岩手県スポーツ歯学協議会運営委員会委員長）による「岩手県スポーツ歯学協議会の活動について」，高木幹正先生（岐阜県スポーツ・健康づくり歯学協議会副会長）による「岐阜県スポーツ・健康づくり歯学協議会について」と題するものでした．

これらの講演を通じ，スポーツ歯科外来の現状が認識され，今後の展望が明確に示唆されました．

（広報　谷口　尚）

第18回日本顎関節学会総会・学術大会

会員懇親会の吉村大会長

平成17年7月30日，31日に，第18回日本顎関節学会総会ならびに学術大会が，島根県くにびきメッセにおいて，吉村安郎大会長（島根大学医学部歯科口腔外科学講座）のもと開催されました．

今回のメインテーマは『健全な口腔機能をめざして』ということで，特別講演1「関節軟骨の変性と修復」（内尾祐司・島根大学医学部整形外科学教室），特別講演2「顎関節鏡視法の開発とその経緯」（大西正俊・前日本顎関節学会理事長），シンポジウム1「顎関節の病態はどこまで分かったか―基礎から臨床まで―」，シンポジウム2「現在の顎関節治療は向上したか」，教育講演・学術講演会「顎関節治療に対する一般歯科の取り組み」，一般口演78題，ポスター発表95題，認定医審査プログラム25題と多彩な発表と熱い討論が行われました．

軽装，ノーネクタイでの参加が呼びかけられ，1日目に地元特産のワインとチーズ片手の会員懇親会が催された今大会は，IADRのような雰囲気で，歯科医学の多くの分野から800名余りの先生方が参加され，意義ある学術大会となりました．

（広報　細木真紀）

第13回日本歯科色彩学会総会・学術大会

平成17年7月30，31日に大阪歯科大学天満橋学舎にて第13回日本歯科色彩学会総会・学術大会が開催され，大阪歯科大学歯科技工士専門学校校長の末瀬一彦大会長のもと，特別講演1題，教育講演2題，一般講演19題と過去最高の数が発表されました．

特別講演では，武蔵野美術大学造形学部教授の千々岩英彰先生が「世界の若者は色をどう感じているか」という演題で講演されました．先生は，20カ国の若者約5,500名に47色のカードをみせ，喜び，怒り，恐怖，未来……などのイメージを答えさせ，その分布から色彩感情色立体を作成されています．明度，彩度，色相で表現された色立体は目にしたことがあるのですが，感情で表現された色立体の話はとても興味深く，あっという間に講演時間が過ぎました．世界の若者の色の見方・感じ方は似ていたことから，色彩は世界に通用する言葉の役割をはたし得る，という結論でした．

本大会では「歯や歯冠修復物の色調評価」，「歯肉色の臨床評価」，「色の表現技術や色彩評価」などの口演やポスター発表だけでなく，色彩感覚涵養大会というゲームも行われました（写真）．色がわずかに異なる25個のコマを規定時間内に色順に並べるというゲームです．私も参加しましたが，思ったよりも難しく，ずっと睨んでいるうちに，目がチカチカしました．なかにはパーフェクトの先生もおられ，場内は熱気ムンムンでした．

暑い大阪で，本大会は大いに盛り上がりました．色カードは，間違いなく「赤」でした．

（大阪歯科大学　鳥井克典）

ニュース

「補綴（ほてつ）」の周知を目指し ホームページをリニューアル

本学会ホームページは，歴代広報委員会の努力により年々充実度を増し，会員の情報収集源として有効に活用されてきました．一方，専門医制度がスタートした社団法人日本補綴歯科学会は，社会に対する責任が一層大きくなり，それに応じていかなければなりません．本会に寄せられる期待，また，一般の方々からの歯科医療に対する質問に答えるべく，「一般の皆様が今以上に親しみやすい」「より**補綴**をわかりやすく伝えたい」をコンセプトに，この度ホームページをリニューアル致しました．検索エンジンでのヒット数，アクセス数の増加などを目指し，今話題のブログや，コラムなどの新企画も含んでおります．現在，一般を対象としたページを中心にリニューアルを進めておりますが，歯科関係者を対象にしたページについても随時更新予定です．会員の皆様のアクセスが，今後検索エンジンでのヒットに繋がると思われます．どうぞ会員の皆様の「補綴」に対する思いをホームページへお寄せ下さい．

第4回アジア補綴学会

平成17年8月9日～11日，タイ，バンコクのインペリアルクイーンズパークホテルにて『Prosthetic Dentistry in the World of Difference』をテーマに第4回アジア補綴学会が開催されました．2年に1度の大会ということで17カ国から600名以上の参加者があり，（社）日本補綴歯科学会からも多数の会員が参加しました．

初日の特別講演ではオーストラリアのPatric Henry先生，UCLA大のJohn Beumer先生，Conneticut大のThomas Taylor先生の3名が即時過重などインプラントに関する最新の話題をそれぞれ異なった観点から講演されました．

夕刻には突然のスコールの中，タイ王室のプリンセスがおみえになり，きわめて厳粛にオープニングセレモニーが開かれました．プリンセスのスピーチや特別講演の演者に記念品を手渡す場面などの写真は，翌日には特別冊子として会場で配布されました．

2日目からの一般講演ではポスター発表全57題中21題，口演発表では26題中2題（共同研究を含めると4題）が日本からの発表となり，今大会における（社）日本補綴歯科学会の貢献の高さがタイ補綴学会からも評価されました．2日目夜の懇親会には，タイの伝統芸能が披露され，民族衣装をまとった踊り子が各テーブルをまわっての記念撮影などがあり，最後には会員も参加する踊りへと親睦の輪が広がり，和やかな雰囲気に包まれました．

2年後には九州大学の古谷野　潔先生を会長として第5回アジア補綴学会が日本で開催されることが決まっており，各国のメンバーと再会を期して会場を後にしました．

（岩手医科大学　鈴木哲也）

第19回日本顎頭蓋機能学会

平成17年9月10，11日に日本顎頭蓋機能学会（会長：川添堯彬教授）の第19回学術大会が，大阪歯科大学附属病院総合診療部診療科の小出　武病院教授を大会長として，独立行政法人国立病院機構大阪医療センターにて開かれました．メインテーマを『顎頭蓋機能と口腔リハビリテーション』とし，特別講演，教育講演，シンポジウム，一般口演，ポスター発表，認定医研修セミナーが催されました．

川崎医療福祉大学の武田則昭先生から「21世紀型のリハビリテーション医学」というテーマで，PCP（Person-Centered Planning：人を中心に据えた計画づくり）について講演が行われました．「リハビリテーション医療と保険診療」と題して小出　武先生の教育講演がありました．シンポジウムⅠ「リハビリテーションの基礎と臨床」では，有田清二郎先生（関西医科大学）が「予後予測」，熊倉勇美先生（川崎医療福祉大学）が「発音障害」，小野高裕先生（大阪大学大学院）が「咀嚼・嚥下障害」に関して講演されました．シンポジウムⅡでは，「顎関節症」，「咬合崩壊」のリハビリテーションについて大阪歯科大学の覚道健治先生と前田照太先生から講演がありました．シンポジウムⅢでは，田村康夫先生（朝日大学）と横浜市開業の大野粛英先生から，耳慣れないハビリテーション（機能の育成）について講演がありました．認定医研修セミナーでは吉田和也先生（京都大学大学院）が「睡眠時無呼吸症候群の歯科的対応」について講演されました．

日常臨床のなかに，21世紀の歯科医療のパラダイムとなるリハビリテーションの考え方を組み込む重要性について考えさせられる学術大会となりました．

武田則昭教授（右）と
川添堯彬教授（左）

（大阪歯科大学　柏木宏介）

受賞者の声

平成16年度日本補綴歯科学会奨励論文賞

左から筆者，豊田　實教授

堀　紀雄
（神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座）

「Biting suppresses stress-induced expression of corticotropin releasing factor（CRF）in the rat hypothalamus」
（Journal of Dental Research 83：124-128, 2004）

この度は平成16年度奨励論文賞を受賞させていただき，ありがとうございました．誠に光栄であり，感謝しております．今回の論文はJournal of Dental Research 83：124－128，2004に掲載されたものに対し受賞させていただきました．

われわれが日々臨床で対象としております咀嚼器官と脳，全身機能には密接なかかわりがあるといわれておりますが，科学的なエビデンスはいまだ確立されていません．咀嚼器官の機能にはまだまだ謎も多く，咀嚼，発音などの機能のほかに脳，全身に影響を与える重要な器官であると考えております．また，咀嚼器官と全身とのかかわりを科学的に解明することは，（社）日本補綴歯科学会の課題の1つにも挙げられております．今回の論文は噛むということが脳に対しどのように影響を及ぼすかということのエビデンス確立の1つのデータになったのではないかと思っております．この咀嚼器官の重要性は単に学問的だけでなく医学領域全体，ひいては国民レベルにも浸透していき，歯科治療の意義の向上や，噛むことの重要性を認識し，確立できるようになるのではないかと考えております．

今回の研究にあたり，終始ご指導をたまわりました神奈川歯科大学口腔生理学教室前教授の田村謙二先生，助教授の湯山徳行先生，神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座の豊田　實教授に深く感謝いたします．ありがとうございました．

鮎川保則（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座咀嚼機能再建学分野）

「Simvastain promotes osteogenesis around titanium implants. A histoligical and histometrical study in rats」
（Clinical Oral Implants Research 15：346-350, 2004）

この度，（社）日本補綴歯科学会奨励論文賞を授賞させていただき，ありがとうございました．

本研究は，一昨年の第110回日本補綴歯科学会学術大会（於長野市）および昨年のEuropean Association for Osseointegration（EAO）13th Annual Scientific Meetingにて発表した内容の一部を論文にまとめ，Clinical Oral Implants Researchに投稿したものです．内容としましては，高脂血症治療薬として知られるsimvastatinの骨形成作用に着目し，これをラットに投与し，脛骨に埋入されたインプラント周囲の骨形成促進を狙ったものです．インプラントに限らず歯科全般にいえることですが，歯槽骨の維持や再生は重要な到達目標の1つと思います．本研究や，現在われわれが取り組んでいる研究がその分野の発展に寄与できるよう，今後も努力いたします．（社）日本補綴歯科学会の先生方のご指導をよろしくお願い申し上げます．

末筆ながら，本論文作成にあたってご指導をいただきました古谷野　潔教授はじめ，共著者の岡村　亮先生，当咀嚼機能再建学分野各位に深くお礼を申し上げますとともに，今後のより一層の努力を皆様にお約束いたします．

関連学会のご案内

第25回日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会・学術大会

開催日：平成17年11月12日（土），13日（日）
会　場：岡山大学創立50周年記念館
大会長：窪木拓男（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔機能制御学分野）

連絡先：〒700-8525　岡山市鹿田町2-5-1
第25回日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会・学術大会実行準備委員会（準備委員長：完山　学）

TEL：086-235-6682
FAX：086-235-6684
E-mail：kanyama@md.okayama-u.ac.jp

日本顎口腔機能学会第35回学術大会

日　時：平成17年11月12日（土）
会　場：北海道大学医学部臨床講義棟大講堂
大会長：山口泰彦

連絡先：〒060-8586　札幌市北区北13条西7丁目
日本顎口腔機能学会第35回学術大会準備委員会（準備委員長：小松孝雪）
TEL & FAX：011-706-4856
E-mail：komatsu@den.hokudai.ac.jp

第15回日本磁気歯科学会学術大会

日　時：平成17年11月12日（土），13日（日）
場　所：北九州市総合福祉保険センター（アシスト21）
大会長：鱒見進一

連絡先：〒803-8580　福岡県北九州市小倉北区真鶴2-6-1
第15回日本磁気歯科学会学術大会事務局（担当：有田正博）
TEL：093-582-1131
FAX：093-582-6000
E-mail：m-arita@kyu-dent.ac.jp

第15回日本全身咬合学会学術大会

日　時：平成17年11月26日（土），27日（日）
会　場：北海道歯科医師会館

連絡先：〒061-0293　北海道石狩郡当別町金沢1757
第15回日本全身咬合学会学術大会（担当：準備委員長：越野　寿）
TEL & FAX：0133-23-2846
E-mail：koshino@hoku-iryo-u.ac.jp

Happy Smiles & Heartful Communication
デンタルエステをはじめてみませんか
MORITA
審美性を追求し、自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
操作性と研磨性を向上しました。
専用のガラスファイバー「EGファイバー」を用いることで、メタルフリーブリッジの製作を可能にし、臨床用途を拡大しました。

ハイブリッド セラミックス
エステニア® C&B
■標準価格 スタンダードセット 128,000円
●医薬機器承認番号21500BZZ00534
製造販売元 クラレメディカル株式会社
販売元 株式会社モリタ 東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161
大阪本社 大阪府吹田市豊津3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525
●掲載商品の標準価格は、2005年4月21日現在のものです。
標準価格には消費税等は含まれておりません。
www.dental-plaza.com

第27回日本バイオマテリアル学会大会

日　時：平成17年11月28日（月），29日（火）
場　所：京都府民総合交流プラザ・京都テルサ
大会長：堤　定美（京都大学再生医科学研究所ナノ再生医工学研究センター）

連絡先：〒606-8507　京都市左京区聖護院川原町53
第27回日本バイオマテリアル学会大会事務局（担当：玄，都賀谷）
TEL & FAX：075-751-4126
E-mail：bio_mat05@frontier.kyoto-u.ac.jp

名誉会員

大山喬史先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能構築学分野）

～おめでとうございます～

こんな顔ぶれでがんばっています．
開かれた，生きたLetter for Membersを皆様の手で育ててください．

社団法人 日本補綴歯科学会 広報委員会
委員長　石橋寛二　副委員長　佐藤博信
委　員　北川　昇　田中昌博　谷口　尚
細木真紀　幹　事　金村清孝
TEL：019-651-5111（内4127）
FAX：019-654-3281
E-mail：kohojps@iwate-med.ac.jp
〒020-8505　岩手県盛岡市中央通1-3-27
岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座

法人事務局にて（後列左から田中，北川，金村，前列左から佐藤，細木，石橋，谷口）